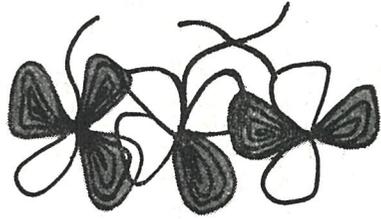


随 想



嵯峨之舎日乗

宇喜田敬介

月 日

若い友人のT君が、十ヶ月になる赤ちゃんを抱いて見せに来た。家内が早速庭先に咲いている石楠花しんなんがはなを指して、「ハナ、ハナ」

と無理な言葉の訓練を始めた。言語中枢の発達した子とみえて、すぐに覚えこんだようである。T君は、この赤ちゃんの生まれる前から、哺乳ビンの洗浄や、おむつの洗濯に使う洗剤の中で、最も毒性の少ないのはどれであり、それが市場に品薄であるから購入方に力をかせと、家内に談じていたひとである。はじめの子を育てる時は、哺乳ビンを一本ずつ熱湯消毒しなければ承知しなかったのが、二番目になると、ザッと水洗いしただけですませていた家内も、若い父親の育児への深い関心に感動し、私の当時の非協力ぶりを改めて非難しつつT君に協力していた。まことに、PCBだのカドミウムだのに脅かされる時代の父親たるも、難いことである。昔はよかった。

月 日

遠縁のU君の結婚披露に招かれた。型のごとく、スピーチや乾杯がすみ、花嫁のお色直しという時になって、式場係の給仕が新郎新婦を共に案内して外へ出て行ってしまった。そこで進行係の青年が、新郎もお色直しに行きましたと説明した。帰ってきた新郎をみると、紋服だったのが、フラン

ク・シナトラの着るような、ふち取りのあつる白い上下と白靴に一変していた。胸に紅いバラを挿さしている。宴が終る頃にもう一度二人して出て行き、今度は、彼は明るいスーツに着替えてきた。これからハワイへ飛びます、と進行係が説明した。私の結婚する頃は、会費制の挙式だとか、参会者の前で誓紙に署名して交換するとかいった新形式が「流行」した。ある人は茶番だと評した。二度お色直しをする新郎も、そのデーンでゆくと茶番であるうが、いつの時代も結婚という儀式では、当事者は手も足も出ない操り人形になる傾きがあるようである。

月 日

同僚のI先生から、九州の到来物といつて、学校で生ウニを手渡された。ホクホクしながら帰宅すれば、何と能勢の知人から何やらの礼だとかで酒が届いていた。一人で、なめるようにウニで酒を飲んでいると情ないことに奇妙にうそ寒い寂しさがつつてくる。白居易に、「誰か料らんや平生狂酒の客、如今却つて酒悲の人となるを」という詩がある。「酒悲」とは、酔うて柱

に抱きつき、俗謡を高歌する「狂酒」の次の段階である。酒歴は古いから、自分も「酒悲」に達しつつあるのやも知れない。残念ながら、深刻な哲学者風が、実は内容空虚というのと状況は酷似するのだが、しかしやっぱり最近の難用の間断なき襲撃に、少少嫌になつてゐるのではないかしらん、と「狂酒」の時代をなつかしむ。

(女子大学教授・英語、英文学)

西ドイツに留学して

津 田 能 人

私は、西ドイツ大学交換留学奉仕会(D.A.A.D.)の給費を得て、二年間(一九七四年四月～一九七六年三月、ブレーメン、ケルンの音楽大学で、主にパイプオルガン、教会音楽(合唱)を勉強することができました。この奨学金は、文部省大学学術局が世話をし、大学卒業者を対称にしたものです。私のように、三十代の者は、若い学生につい

て行くのに、息切れに似たような最初でした。しかし、四ヶ月間のドイツ語学校(北ドイツ・リュエネブルクにある)ゲーテ・インステイトウトでの語学の研修、そして大衆での講義は、私にとってすべてが新しいことばかり。とにかく、一日に六〜七時間は練習、練習で、教会で与えられた四段階のオルガンに向かつていました。

冬のドイツは零下五度〜十度。教会の中は、日曜日以外は暖房を入れませんので、それは寒く、とても厳しいものでした。ガランとした石造りの教会で練習を始め、三十分も経つと、体は暖まります。そして、教会の隅々に置いてある聖人の像や、聖画の主人公たちが、ガタガタ動き出すかのよう、今まで静まり返っていた教会の中はオルガンの響きが、天井の隅々で反響して素晴らしいポリフォニーを作るのです。

ドイツで学ぶことは、その他多くありました。私の娘は、ケルン市立の小学校に通い、一年と二年の前期を修了してきましたが、ドイツの教育制度の在り方もなかなか見習うべき所がありました。成績の評価は1から6までであり、1がとも良い、6が

不充分ということになります。一クラスが約三十名。一年から二年に進級する十月の時点で、すでに三名が学力不十分で落第。娘はどうか進級できたものの、学期半ばでも、落第する者が出るようです。小学校義務教育でも一クラス中で十%の者が落第するのです。私は娘を学校に送り迎える時に、いつもその落第した大きな学童を見ていましたが、大変伸び〜として、いつも私には挨拶をしてくれました。本人はケロリとしているし、親も「ただ運が悪かったのだ」と全然気にしていないようです。何と伸び〜とした教育なのだろうかと羨ましく思いました。又、その時、私が日本人的な物の考え方、見方をしてしまつて、その子に申し訳ないと反省したこともあります。

戦後の西ドイツの復興は、マイスター(職人)制度にあると言われています。ドイツでは、大学に進む人はほんの七%未満、大半は、職業学校で職を身につけ、働くことの大切さを教えてもらうのです。大学を出る人は、本当にインテリであり、エリートであるのです。多くの人たちは、マイスタ

一制度により、いくつもの試験をパスすることによって、上へ上へと昇格し、最後にマイスターになるよう努力をします。車の修理工場、種々の手工業（オルガンの製作所等）、又、一部の会社にはマイスターが二、三人おり、若い人を育成しているのです。

短い間でしたが、私は、ドイツ国がすべての人々にいきとどいた、そして努力次第で自己の能力を充分に発揮でき得る社会であるということを感じてきました。ドイツのどの地方、田舎に行っても、余り貧富の差がないのも、経済・文化水準の高さからでしょうか。ドイツ国民は勤勉であります。又、ゆったりとした日常生活を送っています。広い、緑の一杯ある環境の中で、本当に貴重な体験を許されて、ありがたいと思っています。

（高等学校教諭・芸術）

同志社大学名誉学位受領者略歴

二 瓶 要 蔵氏 (名誉神学博士)

明治17年 5月26日生
 明治40年 同志社神学校卒業 松山教会牧師
 大正4年 京都今出川教会(現洛北教会)牧師
 大正7年 米國オーバーン神学校、ユニオン神学校、英国エディンバラ大学に留学
 大正11年 巢鴨教会牧師
 大正12年 雑誌「宗教」を発刊、爾来今日まで続刊
 昭和20年 東京都島山に聖ヨハネ教会を創設 同教会牧師
 昭和41年 神奈川県伊勢原市東富岡に聖ヨハネ修道所を創設、同修道所長
 現在 聖ヨハネ教会牧師、聖ヨハネ修道所長
 現住所 神奈川県伊勢原市東富岡414

岩 村 清 四 郎氏 (名誉神学博士)

明治22年 1月9日生
 大正2年 同志社大学神学部卒業
 大正4年 米國ハートフォード神学校卒業
 大正5年 米國ホワイト聖書神学校卒業
 靈南坂教会副牧師兼宗宗教教育主任
 大正6年 靈南坂幼稚園主事
 大正8年 南洋伝道団幹事
 大正9年 財団法人日本日曜学校協会理事
 昭和2年 宗教法人めぐみ幼稚園創設
 めぐみ教会創立(現 日本基督教団) 同教会牧師
 昭和6年 日本基督教保育連盟理事
 昭和14年 めぐみ高等女学院創設
 昭和29年 日本基督教協議会教会学校部理事長

現在 めぐみ教会名誉牧師、めぐみ幼稚園名誉園長、日本基督教保育連盟評議員、東京都知事・東京都大田区長から教育功労章受章、藍綬褒章・勲五等瑞宝章受章

現住所 東京都大田区池上1丁目19番35号

白 石 古 京氏 (名誉文化博士)

明治31年 3月18日生
 大正11年 東京帝国大学経済学部卒業
 大正12年 株式会社京都日日新聞社入社
 昭和20年 株式会社京都新聞社取締役、代表取締役
 昭和23年 同志社大学文学部嘱託講師
 昭和24年 社団法人共同通信社理事會副会長
 昭和24年 京都商工会議所理事
 昭和26年 近畿放送株式会社代表取締役社長
 昭和30年 社団法人日本新聞協会理事會議長
 昭和33年 関西テレビ放送株式会社代表取締役副社長
 昭和36年 京都商工会議所副会長
 昭和46年 社団法人日本新聞協会会長
 現在 株式会社京都新聞社社長、近畿放送株式会社社長、株式会社京都産業観光センター社長、株式会社京都ロイヤルホテル社長、日本プレスセンター社長、観光政策審議会委員、社団法人日本新聞協会理事、社団法人共同通信社理事、京都商工会議所顧問同志社創立百周年記念事業名誉顧問
 藍綬褒章、勲一等瑞宝章受章
 現住所 京都市左京区大原上野町238